

2026年3月期 第1四半期 決算補足説明資料 (2025年4月～2025年6月)

2025年8月8日

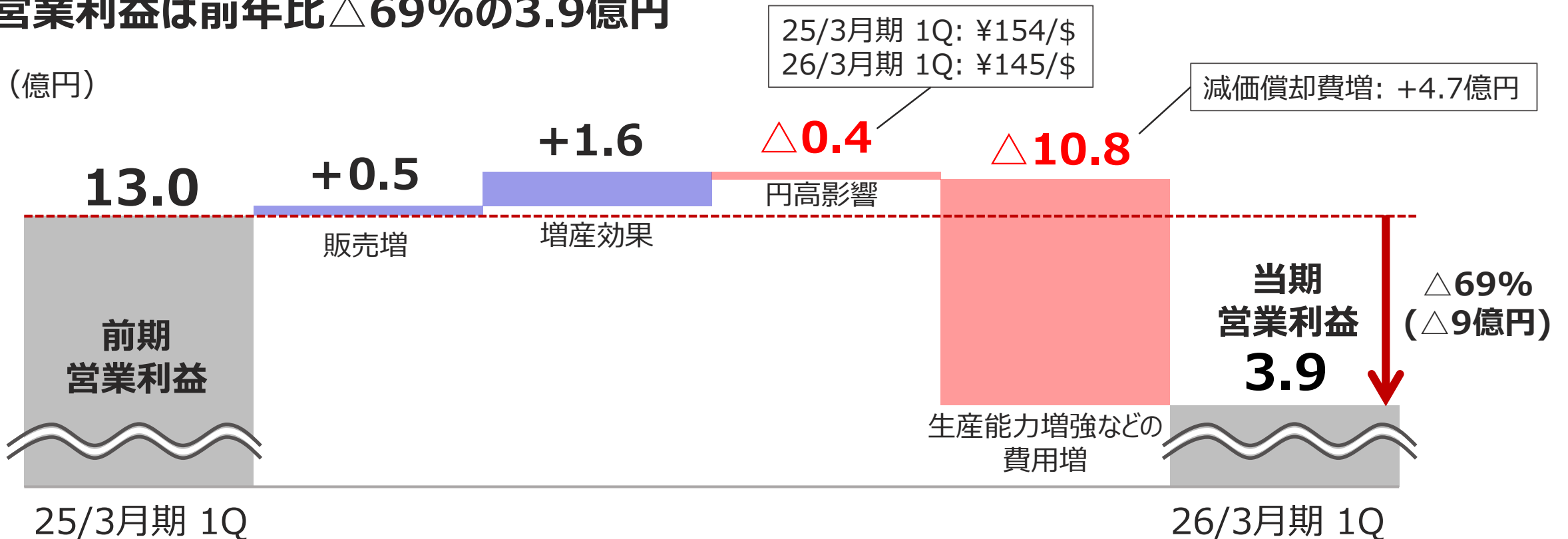
東洋合成工業株式会社（証券コード：4970）

- ・ 現中計（Beyond500）の大型設備投資は昨年度にすべて完了
- ・ 24年10月に先端半導体向け材料の新規生産ラインが完成し、生産能力は1.8倍に拡大
- ・ 売上高は、汎用品は減少したものの、先端半導体向け材料が堅調に推移し、前年同水準の91.2億円
- ・ 営業利益は、今後の供給拡大に向けた新設備の稼働開始により、減価償却費や人員増強等のコストが10.8億円増加し、3.9億円、前年比△69%

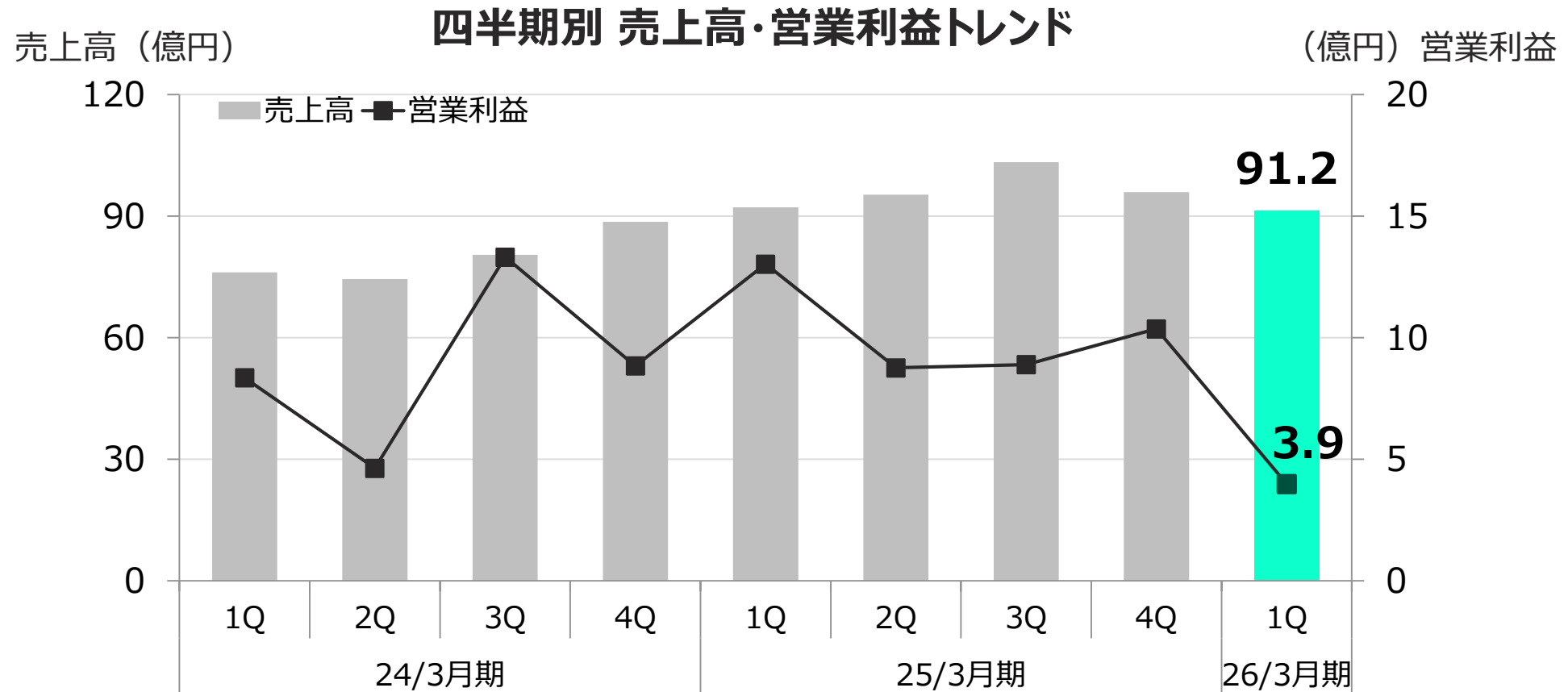
(億円)

	2025年3月期 1Q実績	2026年3月期 1Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	92.1	91.2	△0.8	△1%
営業利益	13.0	3.9	△9.0	△69%
経常利益	14.2	2.9	△11.3	△79%
四半期純利益	9.6	2.0	△7.6	△79%
1株当たり 四半期純利益（円）	122.04	25.39		
期中平均為替レート	¥154/\$	¥145/\$		

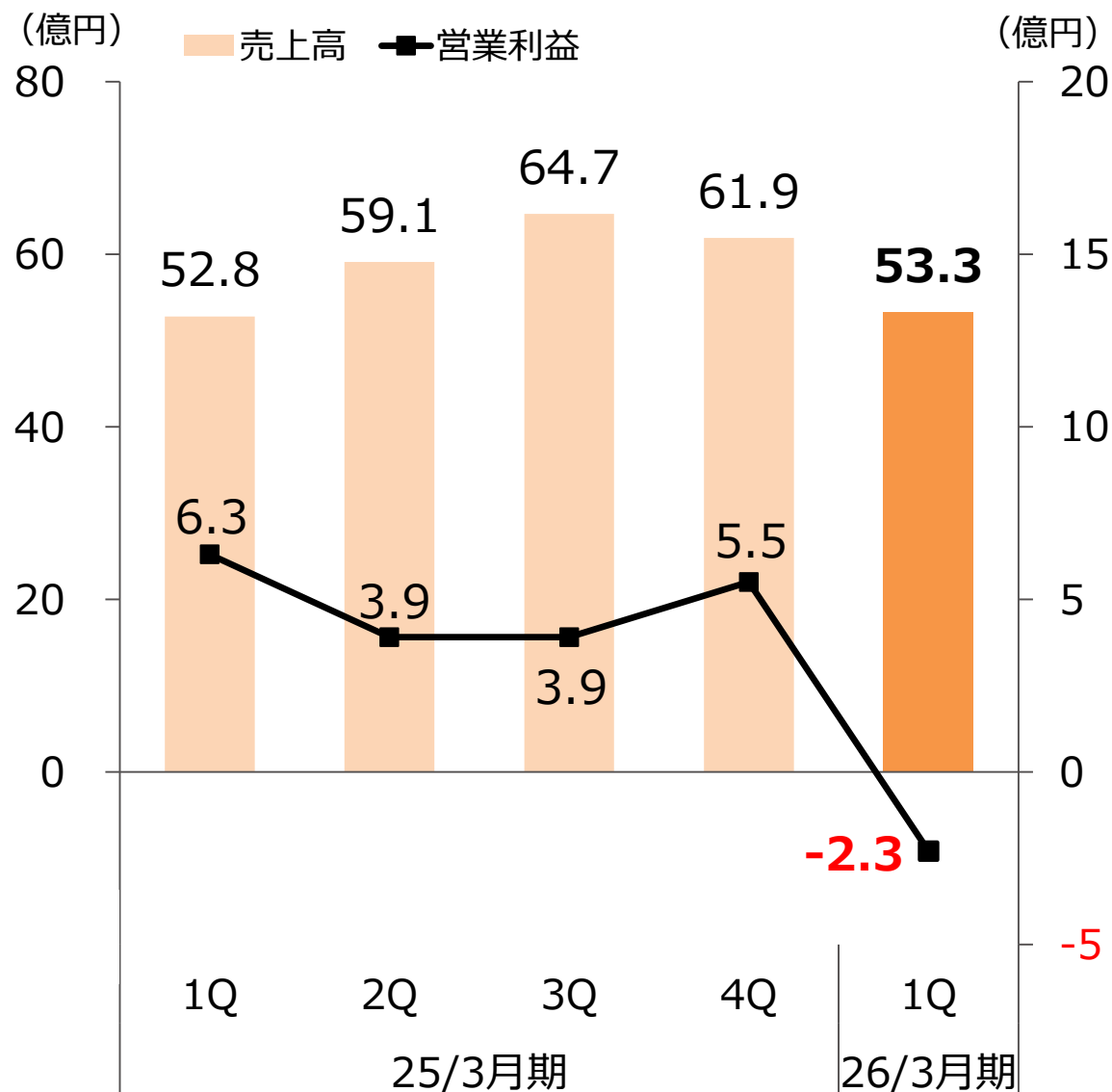
- 新設備の稼働開始に伴い製品認定が進捗。ただし、減価償却費や人件費が先行して増加
- さらに、生産情報システムの稼働開始も加わり、減価償却費や人員増強等、合計10.8億円の費用増
- 営業利益は前年比△69%の3.9億円



- 売上高は、関税措置のリスク回避に伴う駆け込み需要の反動により、サプライチェーン上での在庫調整が発生し、前四半期に比べ一時的に減少
- 営業利益は、新設備稼働に伴う減価償却費や人員増強等の先行費用増により3.9億円



売上高・営業利益



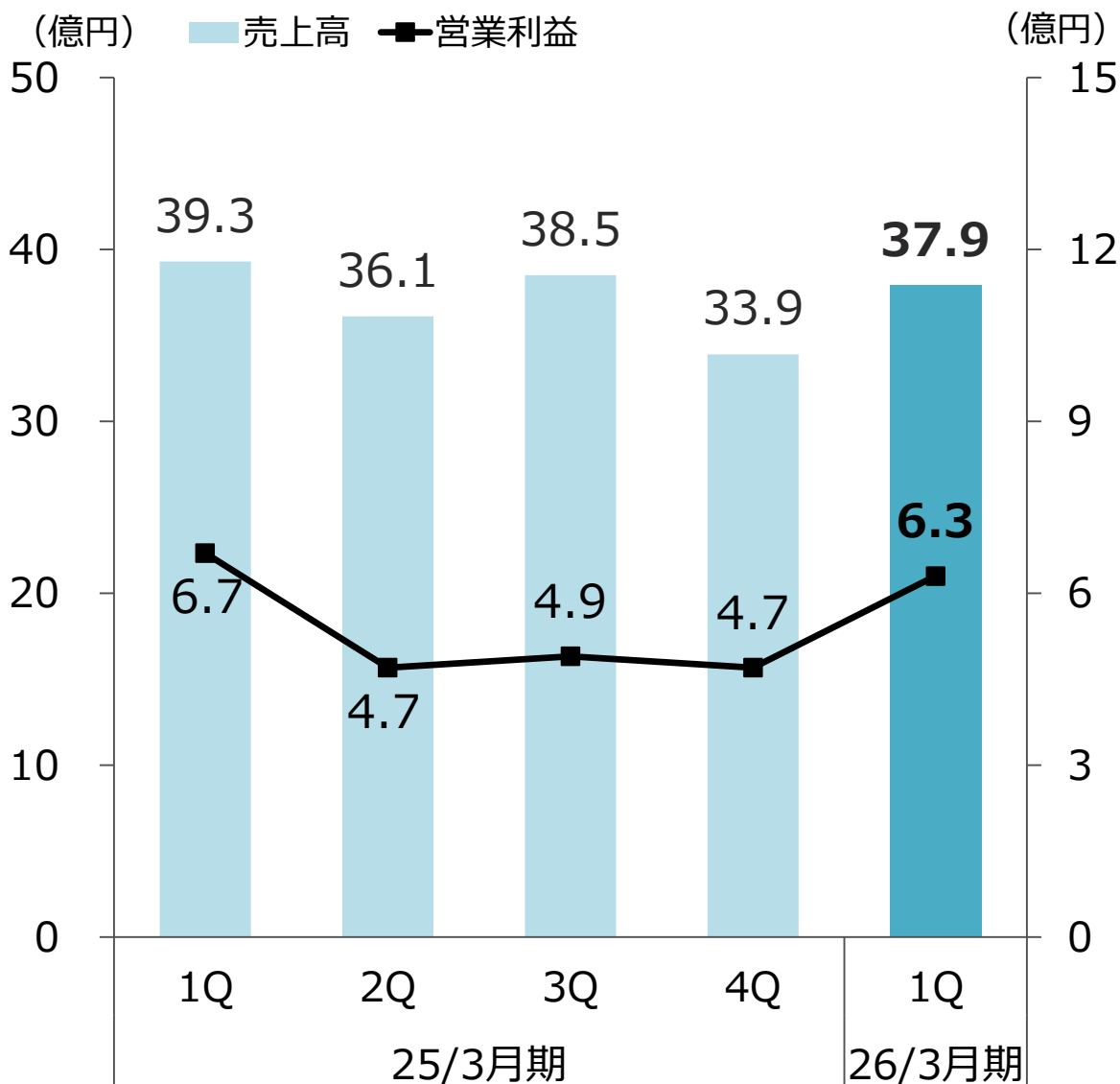
売上高：53.3億円（前年比+1%）

- ・ 前年比では、生成AI用途の需要が継続し、先端フォトリソ向け材料の売上増加
- ・ 一般半導体向けは前年比でやや減少
- ・ ディスプレイ向け材料は、中国での補助金政策の効果なども影響し、販売も堅調
- ・ 生成AI用途以外の売上は前四半期比で減少

営業利益：△2.3億円（前年比△8.6億円）

- ・ 24年10月、先端半導体向け材料の新規生産ラインが完成し、現中計の大型設備投資がすべて完了
- ・ 量産化に向けた製品認定が進捗
- ・ 25年4月に生産情報システムも稼働を開始
- ・ これら稼働開始に伴い、減価償却費や人員増強等のコストが増加

売上高・営業利益



売上高：37.9億円（前年比△3%）

- 高純度溶剤は、半導体・電子部品向けの緩やかな需要増加が継続し、前年比で売上増加
- 香料材料関連は、サプライチェーン上での在庫調整と為替影響により、前年比で売上減少
- タンクターミナル関連は、国内品の需要に加え、輸入品に対する保管需要も堅調
タンクの引き合いは依然として旺盛な状況が継続

営業利益：6.3億円（前年比△6%）

- 前年比では同水準
- 前四半期比では、高純度溶剤の売上増加により増益

2026年3月期 第1四半期 損益計算書

- ・ 売上高は、91.2億円。前年同水準を維持
- ・ 営業利益は、新設備の稼働開始により減価償却費や人員増強等、10.8億円の費用増があり前年比△9億円
- ・ 経常利益は、前年の為替差益計上により前年比△11.3億円

(億円)

	25/3月期 1Q	26/3月期 1Q	増減額	増減率
売上高	92.1	91.2	△0.8	△1%
売上原価	68.0	74.7	+6.7	+10%
売上総利益	24.0	16.4	△7.5	△32%
販売管理費	11.0	12.5	+1.4	+13%
営業利益	13.0	3.9	△9.0	△69%
営業外収益	1.7	0.4	△1.2	△73%
営業外費用	0.5	1.5	+0.9	+180%
経常利益	14.2	2.9	△11.3	△79%
特別損益	△ 0.2	0.0	+0.2	—
税引前当期純利益	13.9	2.9	△11.0	△79%
法人税等合計	4.2	0.9	△3.3	△79%
当期純利益	9.6	2.0	△7.6	△79%

2026年3月期 第1四半期 貸借対照表



- 新設備稼働に伴う製品認定の生産により、運転資金(=売上債権+棚卸資産-仕入債務)が増加し、+4.5億円
- 流動資産その他は、前期完了した大型投資に伴う税還付により△12.1億円
- 自己資本比率は、38.5%(+0.8pt)

(億円)

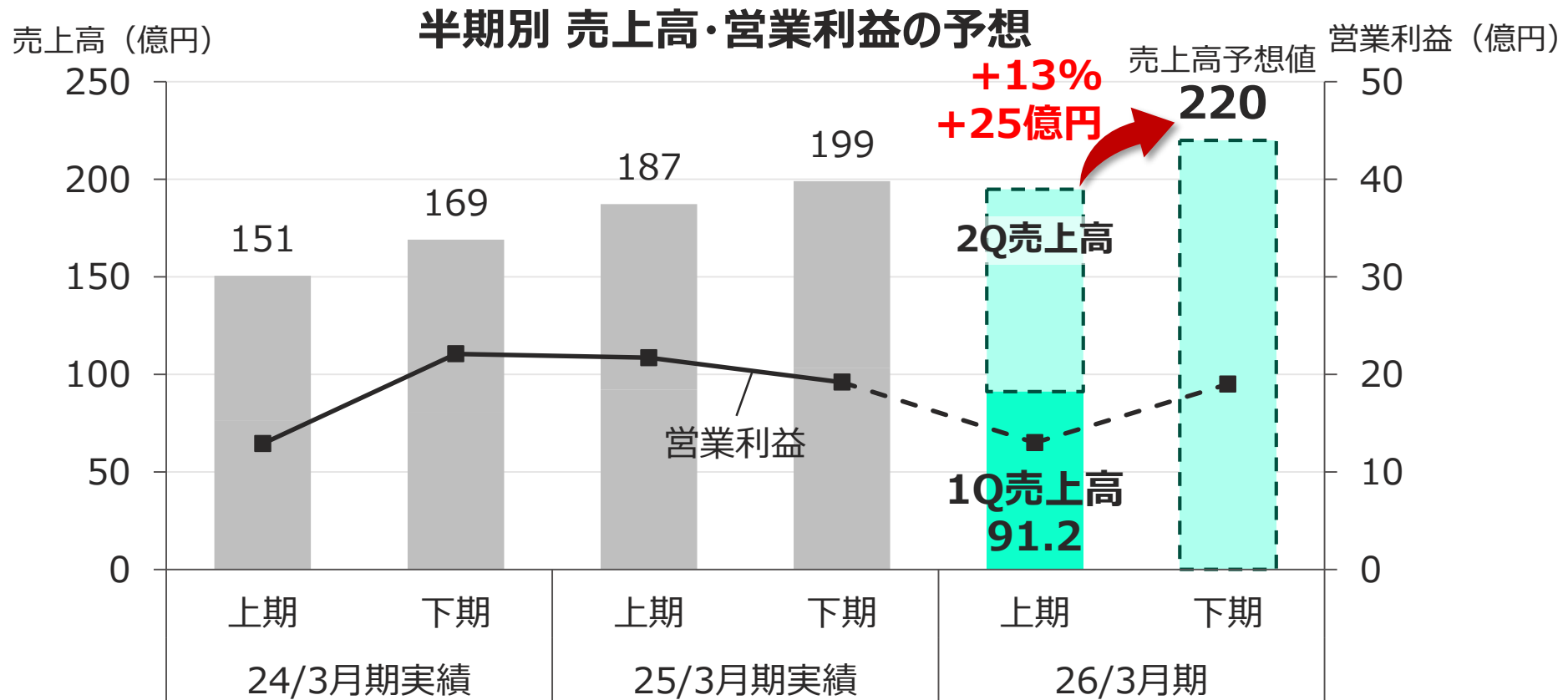
	25/3月末	25/6月末	増減額		25/3月末	25/6月末	増減額
流動資産	240.6	232.8	△ 7.7	負債	410.3	396.0	△ 14.2
現金預金	35.9	35.6	△ 0.3	仕入債務	56.7	56.9	+0.1
売上債権	73.7	65.2	△ 8.5	借入金	277.3	275.6	△ 1.6
棚卸資産	110.5	123.7	+13.2	その他	76.2	63.4	△ 12.7
その他	20.4	8.2	△ 12.1				
固定資産	417.9	411.4	△ 6.4	純資産	248.3	248.3	△ 0.0
有形固定資産	377.0	374.7	△ 2.2	株主資本	245.9	246.0	+0.0
無形固定資産	25.9	22.5	△ 3.3	その他	2.3	2.3	△ 0.0
投資・その他	15.0	14.1	△ 0.9				
資産合計	658.6	644.3	△ 14.2	負債・純資産合計	658.6	644.3	△ 14.2

- 上期業績予想値に対する進捗率は、売上高47%とほぼ予定通り
- 利益は、高付加価値品の製品認定期間の影響により、営業利益31%、純利益25%
- 下期に向けて販売増加を見込み、上期・通期ともに業績予想値は公表値から変更なし

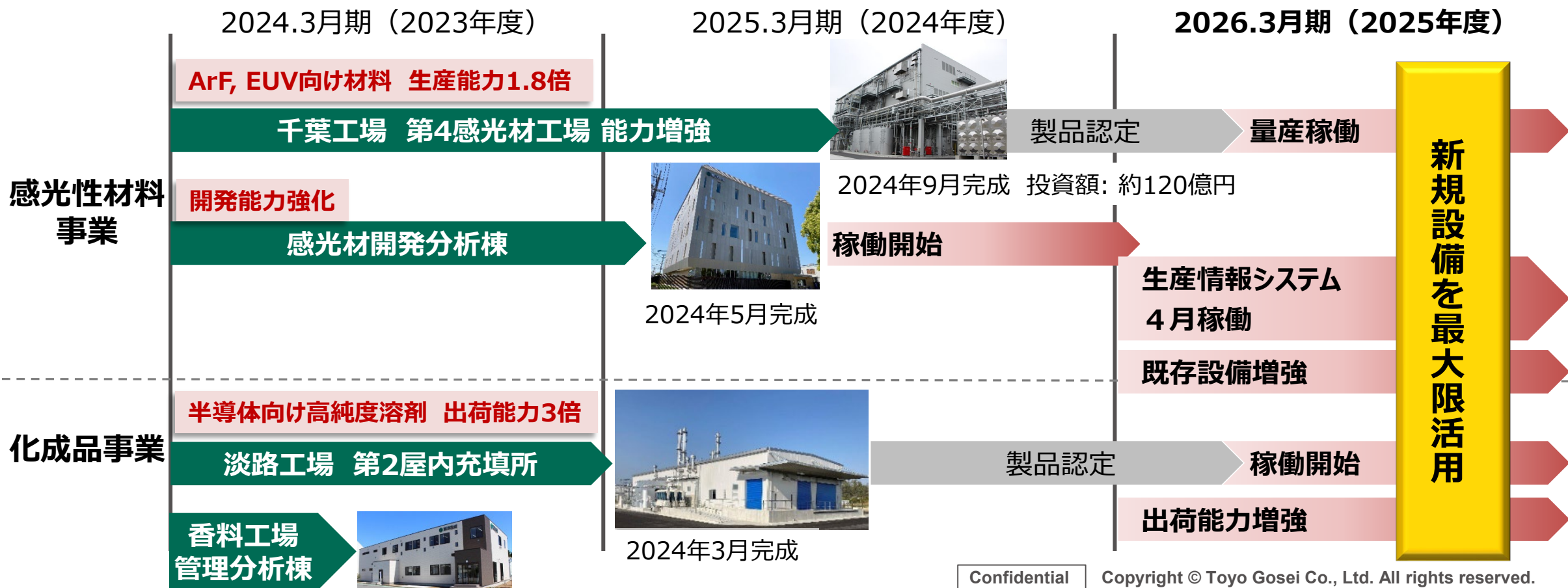
(億円)

	2026年3月期 上期業績予想値	2026年3月期 1Q実績	進捗率
売上高	195.0	91.2	47%
営業利益	13.0	3.9	31%
経常利益	12.0	2.9	24%
純利益	8.0	2.0	25%
期中平均為替レート	¥145/\$	¥145/\$	

- 2Q以降は、先端半導体向け材料を中心に継続的な販売拡大を見込む
- 新設備の製品認定が進行中
- 今後、新設備での量産品増加により、売上と営業利益を向上

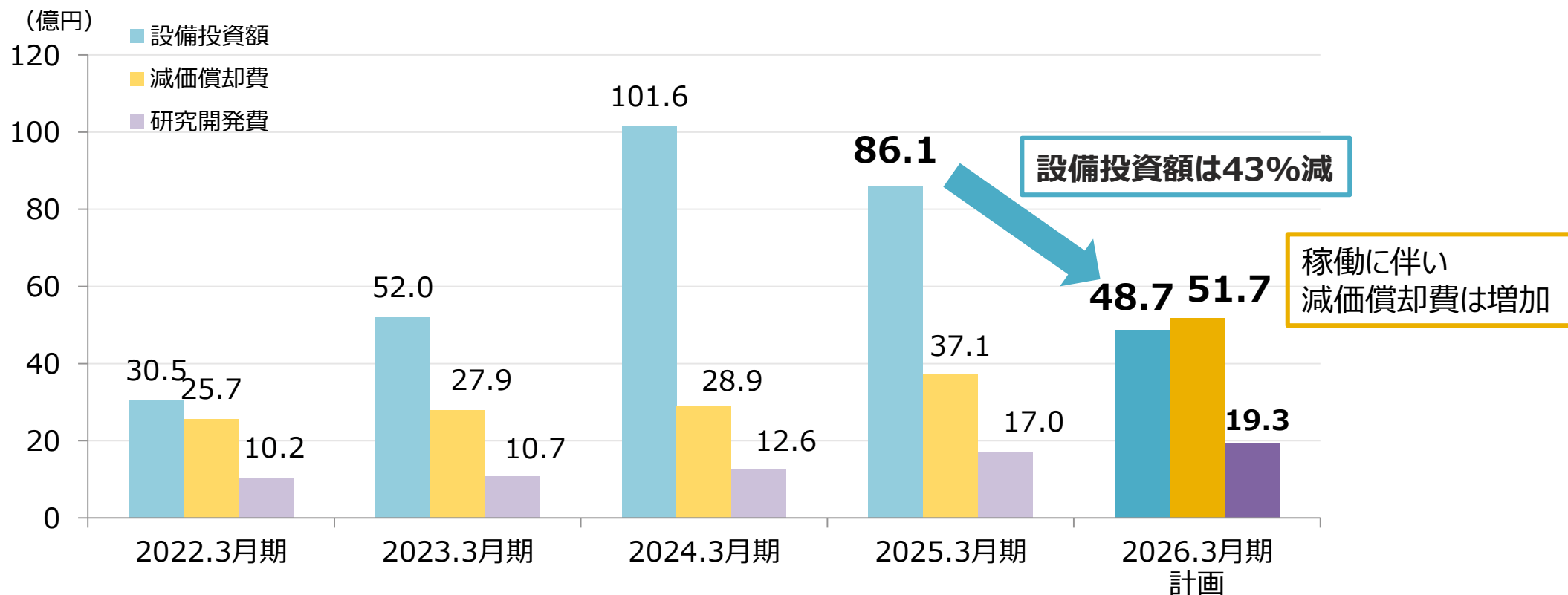


- 2024年9月に先端半導体（ArF、EUV）向け材料の生産ライン（第4感光材工場能力増強）が完成し、Beyond500（現中計）の大型設備投資はすべて完了
- 26年3月期は完成した設備を最大限活用し、製品認定・量産化により高付加価値品の供給拡大を狙う



- ・ 現中計（Beyond500）の大型設備投資がすべて完了し、今期設備投資は前年比43%減
- ・ 大型設備の稼働開始により減価償却費は増加
- ・ 今後新設備の活用により収益拡大を狙う

設備投資額・減価償却費・研究開発費



独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical



東洋合成工業株式会社

（見通しに関する注意事項）

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。